



1. 「助動詞の後ろには動詞の原形」という当たり前のルールが、Part5.6で問われる。

2. 助動詞（will , may , can , must ,should）はそれぞれ2つの意味がよく出てくる。ただし、canは「できる」って意味で出てくることが多く、「ありうる」って意味で出てくることはほとんどない。また、mustはそもそもあまり出てこないが、「～しなければいけない」の意味でたまに出てくるイメージで、「～にちがいない」はほぼ出ない。また、shouldがかなり頻出するのが印象的。

3. 助動詞の代用表現（be going to , be able to , have to , need to , ought to）はよく出てくる。need toは通常はここで解説されることが少ないけど、あまりにも頻出なのでここでも紹介しておく。shouldは頻出するけど、その代用表現のought toはほぼ出てこない。

4. 祈願のmayは出てこない。とはいえ、英語の知識が丸暗記ではないことを知ってもらうためにも、ぜひ記事は読んでほしい。

5. must not（～してはいけない）はほぼ出てこないが、中学知識でもあるし、知らないと全く違う意味になってしまうのでおさえておく。一方で、don't have to（～する必要はない）はちらほらと出てくるので必ずおさえておく。

6. wouldとused toの話は受験英語だと定番だけど、TOEICだと、used toがたまに出るくらいで、過去の習慣を表すwouldはほぼ出ない。なので、use toの「以前は～だった」という意味はしっかりと覚えておく。

7. 助動詞＋have＋p.p.は受験英語だと最重要と言ってもいいけど、TOEICだと出てこない。たまに、should＋have＋p.p.が出てくるくらい。とはいえ、記事で紹介している6つは覚えておきたい。

8. 仮定法現在も受験英語だと定番問題であるが、TOEICでは問われることはほぼない。ただし。英文中にはちらほら出てくるので、その際に、なぜ動詞の原形？ってことは理解しておきたい。

9. wouldとcouldは頻出する。その場合の意味は、98%以上は「控えめ・丁寧」の用法になる（Would you～?などの慣用表現を含む）。

10. 助動詞の慣用表現は出るものが偏っている。具体的には、would like to , would you like to , would like , Would you～? , Can I～? , Can you～? , Could you～?ぐらい。受験英語で定番のhad betterなどはほぼ出てこない。